

企業 ZOOM UP

第607回

デジタルリユース

—セキュリティー徹底、IT機器のリユース

パソコン、複合機、デジタルカメラ、ゲーム機、テレビ…。周りを見渡せば、そこかしこにデジタル機器が溢れている。あらゆる情報が蓄積され、そこには企業の機密情報も膨大だ。コンプライアンスの順守や情報漏えいのリスク管理のためにも、OA機器の取り扱いに慎重を期さなければならないのは、今や言うまでもない。デジタル機器は利便性をもたらした半面、危険性とも背中合わせの副作用をもたらしている。

今回の取材先は、こうした機密情報が満載のデジタル機器のリユース・リサイクル事業を手がける、デジタルリユース（株）。監視カメラが設置されたセンターでセキュリティーパスを受け取りまず目にしたのは、国内外のITメーカーやリース会社、個人から送られてきたOA機器が所狭しと並ぶ様子。メーカー・品番・使用状況はさまざま、蓋を開けてみるまで状態が分からない機器は、荷受け・選別を経て、それぞれにトレーサビリティのためのシリアル番号が付番される。その後、機器に合わせてデータを消去。その作業は人の手で行い、1つ1つ機能検査・診断をして消去後のチェックを実施する。その確実性を目の当たりにし、「お客様が安心して頼める」「不良ゼロを推進」というスローガンを実行する、セキュリティー面とコンプライアンス面に対する当社の自負が伝わってきた。

堀越社長（左から2番目）と浦和センターの皆さん。パソコンを中心に幅広い機器を取り扱う



近年は、データ消去後のまっさらなパソコンにマイクロソフト社・正規のWindows OSをインストールする「MARプログラム」に参加して、付加価値を高めた中古PCの販売にも注力する。もちろん、インストール作業も確実性を重視するのはデータ消去の工程と同じ。方針に掲げる不良品ゼロ活動を推進する。

堀越社長は「リユース工程は人の手による作業で労働集約的です。今後は更にプロセスの革新を進め、組織体制の強化を図りたい」と話し、セキュリティー・コンプライアンス面を保持したまま、更なる組織力の向上を目指す。あらゆるデジタル機器が生まれるなか、売り手、買い手の双方にとって「安心」を担保しながら、一次利用を終えたデジタル機器のデータ消去、検査を一手に引き受け、二次利用につなげる当社。リユース・リサイクルを経て新たに生まれ変わる機器は、資源活用面でも安価な商品を求める消費者にとっても欠かせない存在だ。

（取材・文／東京支社情報部 下 麻奈美）

会社概要

デジタルリユース（株）
 企業コード：981280172
 東京都品川区西五反田3-12-14、電話03-5740-8310
 堀越幸雄社長
 設立：2001年3月、資本金：4億9000万円
 事業内容：OA機器買い取り、リサイクル処理、データ消去サービス
 年売上高：約26億3200万円（2014年2月期）
<http://www.digital-reuse.com/>